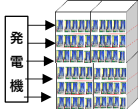




## 遠心圧発電装置 の特徴 と 第7次エネルギー基本計画

### 遠心圧発電装置の特徴 (FXGEデバイス活用)

- 天候や場所を選ばない小スペース設置型。
- 遠心力（遠心圧）の回転動力は、自然エネルギー（太陽光・風力・）**と蓄電池とFXGEデバイスの構成で無燃料。
- 天候に左右されずに、24時間稼働が可能。
- 環境へのダメージは無し。（太陽光・風力・・・等の大規模は環境破壊の指摘あり）
- 脱炭素で主力電源化が可能な**地産・地消の分散型発電装置**。  
(メガ発電も可能、量産も可能、複数台の発電装置の使用を制御し、グリーン水素の生成・温水・・・等 用途に応じた活用が可能)
- EVへの応用 **発電機が移動可能**
  - ・**自己発電式EV（車、船、飛行機、車両）**
- ◆EV自体が発電機という認識を元に、その電力を移動用動力としてEV自体に、移動時以外はV2H（ホーム）、V2B（ビルディング）、V2G（電力網）等に活用
- ◆災害時（停電）の電力活用、雪国での融雪（屋根、道路。）にEVからの電力で（融雪シートや融雪水を）



### 第7次エネルギー基本計画

#### ◆2050年カーボンニュートラル。

2035年度、2040年度に、温室効果ガスを2013年度からそれぞれ60%、73%削減することを目指す。

#### 【基本方針】

エネルギー政策の要諦は、**安全性**を前提とした上で、**エネルギーの安定供給**を第一とし、経済効率性の向上による**低コストでのエネルギー供給**を実現し、同時に**環境への適合**を図る  
S+3Eの実現のため、最大限の取り組みを行うこと。

【再生可能エネルギー】 **S+3E**を大前提に、再エネの**主力電源化**を徹底し、再エネに最優先の原則で取り組み、**国民負担の抑制**と**地域との共生**を図りながら最大限の導入を促す。

S+3E

### 【遠心圧発電装置の貢献】

- 安全最優先 → 遠心力（水圧）の為、安全。**適合**。（水 又は オイルを活用）
- 資源自給率 → 圧力と水なので資源自給率は100%。**適合**。
- 環境適合 → CO2は排出せず脱炭素。他の再生可能エネルギー（大規模な太陽光、風力、・・・）のように環境破壊が無い。**適合**。
- 国民負担抑制 → 無燃料なので低コスト化が可能。**適合**。

- ◆主力電源化が可能で原子力の依存を**軽減**
- ◆主力電源化が可能で経済的に自立し脱炭素化に**適合**
- ◆分散型エネルギーと地域開発の推進に **適合**

この「分散型遠心力発電機」の実現は、2050年に向けた、第7エネルギー計画の大きな課題解決手段の一つである。しかも**経済発展に伴うエネルギー需要増に対応しつつも、CO2削減を両立させることができる新・再生可能エネルギー**です。  
そして、国民生活の向上とCO2削減により世界の持続的な発展へ大きな貢献ができるものです。

エネルギー安全保障と安定供給

経済発展と脱炭素化の両立

## エネルギー比較

## 遠心圧発電装置

**新** 遠心圧発電

自然エネルギー

(遠心圧エネルギー)

S+3E

	原子力発電	火力発電	水力発電	太陽光発電	風力発電
安全最優先	X	O	O	O	O
資源自給率	△	X	O	O	O
環境適合	△	X	△	△	△
国民負担	▲（災害時を含むと？）	△	O	X	X
CO2排出	O	X	O	O	O
主力電源化	O	O	X	X	X
天候の制約無し	O	O	△	X	X
場所の制約無し	△	△	X	△	X
分散型発電	X	X	X	O	O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

O

課題

特記事項

ロシアはエネルギーインフラを集中的に攻撃しており、ウクライナの火力発電施設の5割、風力発電施設の9割、太陽光発電施設の5割を破壊したという。  
◆原子力発電所は攻撃への恫喝。占領時は盾に利用された。◆水力発電所も破壊された。  
○2025年9月、ロシアとウクライナの双方でエネルギー施設（発電所、送電網）への攻撃が激化している

戦時はエネルギーインフラへの攻撃がある。（メガソーラーや大型風力・・・も）

◆左記の各エネルギーによる課題は無い。  
◆利点・・・メカニツクのみで量産化が可能。天候や場所に左右されず、動力利用も可能。場所に左右されない分散型なので地産地消でグリーン水素も可能。非常時の水を生成・・・等。

◆エネルギー密度  
FXGEデバイス活用した遠心圧発電装置の集積・階層化で規模は柔軟に対応。大規模発電も可能。（データセンターのサーバーのように）

EVへ応用。自己発電式EVに。  
車は自己発電式EV。  
船舶は自己発電式EV船。  
航空は自己発電式EV飛行機。  
鉄道は自己発電式EV車両。

◆被害は縮小される（分散型の拡大で）